

河川空間の健康・福祉・医療面での利用実態とその増進に関する研究

日本大学理工学部 学生会員 ○森谷 和紀
日本大学理工学部 正会員 吉川 勝秀

1. はじめに

河川は身近にある公共空間であり、散策、水面利用、スポーツなどに利用されてきた。現在、我が国では図-1に示したように、この30年間で少子高齢化が進み、人口の構造が大きく変化している¹⁾。このような状況から、社会での健康・福祉・医療面での対応が重要とされてきており、これまでの河川利用だけではなく、河川の健康・福祉・医療面での利用が求められる。

本研究では、河川の健康・福祉・医療面での利用について、その現状を河川水辺の国勢調査、先進的な利用、健康・福祉・医療面での利用に関するアンケートという三つの観点から調査を行い、河川の健康・福祉・医療面での利用増進について検討した。

2. 河川利用の現状

河川空間の利用現状は、国が管理する一級河川（水系）を対象とした河川水辺の国勢調査²⁾によると、図-2のようであり、それら区間を年間約1.8～1.9億人が利用している。また、これら以外の河川を含めると、さらに多くの人が河川を利用しているということが推測される。

河川の利用内容は、図-2のとおり河川利用者数全体からスポーツ、釣り、水遊びの利用数を差し引いた散策等の利用者が最も多く、次いでスポーツでの利用となっている。また、平成12年から平成18年の利用者数の変化をみると、釣り、水遊びでの利用は若干減少傾向にある。

3. 先進的な事例

河川の健康・福祉・医療面での利用を行っている先進的な事例を表-1に示した³⁾。これらの特徴として、福祉・医療施設を中心とし、河川を利用している事例、健康・福祉・医療面での利用だけではなく、教育等の他の面が複合した利用がなされている事例、河川を中心に、福祉・医療面に配慮したまちづくりが行われている事例があり、いずれも、一般の人々の自由利用も行われている。また、先進的な利用がなされている河川は、その地

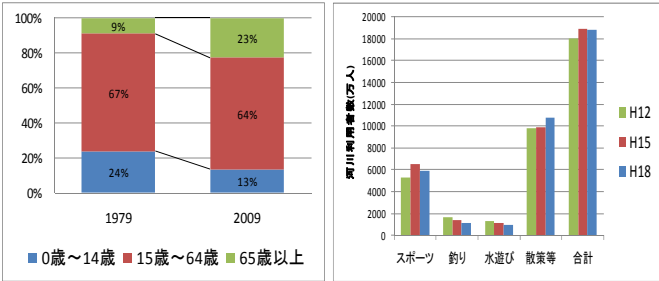


図-1 日本人の年齢別人口 図-2 河川利用形態別利用者数
(1979, 2009) (国土交通省直轄区間)

表-1 河川の健康・福祉・医療面での先進的事例

河川名	場所	特徴
小貝川	茨城県取手市	河川の総合公園の整備、桜つみの整備、地上、水面、空という3次元での利用
子吉川	秋田県本荘市	川と田舎が福祉と教育で効果的に利用されている事例
鬼怒川	栃木県真岡市	河川に自然教育センターと老人研修センターを併設 川を利用した教育、福祉が実施されている例
荒川下流	東京都	河川管理を行う行政、地方自治体や障害者団体、医療関係者による「福祉の荒川づくり計画」の策定 河川管理を行う行政、地方自治体や障害者団体、医療関係者による「福祉の荒川づくり計画」の策定
茂進川・進川	北海道恵庭市	市で水と緑の交流プランを策定し、子どもたちの自然体験の場や、高齢者や障害者の散策等に利用 河川でまちづくり、環境、教育、福祉を含めて利用
新町川	徳島県	市民団体NPO新町川を守る会、無料の遊覧・周遊船 行政・市民による河川、河川の整備
深野川	鳥根県南雲市	隣接するケアポートよしたへの通路、対岸に位置する保育所との間の通路の設置 ケアポートよしたを中心とした地域単位で福祉に取り組みした例

域の自治体・住民なども協力をしあって健康・福祉・医療面での利用を進めている。

4. 河川利用に関するアンケート

(1) アンケート概要

河川の健康・福祉・医療面での利用に関する調査として、国の河川管理事務所と各地方整備局、都道府県、政令指定都市の河川担当部局にアンケートを行った。このアンケートでは、散歩・ウォーキングなどによく利用されている河川、健康・福祉・医療に配慮してこれまでに行なった河川整備、福祉・医療施設周辺の河川利用、今後の同趣旨での河川整備、健康・福祉・医療面での利用促進の意見について回答をいただいた。

(2) アンケート結果

アンケートでは187件中108件の回答が得られた。回答の80%以上が散歩・ウォーキング等によく利用されている河川があるとしており、表-2にその代表的な例を示した。

高齢者や障害者を含む人々の河川利用を促進するための河川整備・施策については、72%の国の河川事務所、都道府県、政令指定都市の河川担当部局が、それらの整備・施策を行っていた。整備・施策の内容は図-3

に示した通りであり、従来から行われていたトイレ整備、公園広場整備に加え、現在ではスロープ、散策路・遊歩道整備といった様々な整備・施策が行われている。これらの整備により、河川利用が促進されたと回答したのは41%であり、変化なしと回答したのは3%であった。また図-4をみると、平成7年前後を境に整備が増加しており、この頃から健康・福祉・医療面での利用に目が向け始められたといえる。

福祉・医療施設周辺での同様の河川整備は、全体の28%の地区で行われており、図-5をみると、平成9年度頃から整備が増加していることがわかる。また、整備内容としてスロープ整備が最多で、次いで散策路・遊歩道整備となっている。

福祉・医療施設周辺で特段の整備が行われていないにもかかわらず、河川がよく利用されているといった例は14%であり、利用内容は70%以上が散策・ウォーキングであった。

今後、これまでに述べたような河川整備の実施を予定しているのは全体の41%であり、その内容を図-6に示した。整備予定件数は図-7に示した通り現在から継続して行われているものが最多で、25%が実施時期未定となっている。

河川の健康・福祉・医療面での利用促進については、図-8に示した通り90%が促進すべきと考えている。それら以外の否定的意見から、安全性の優先、財政、必要性という問題点が得られた。

5. 健康・福祉・医療面での利用増進についての検討

河川の健康・福祉・医療面での利用増進については、先進的事例をモデルとし、よく利用されている地区、需要がある地区での利用増進と、アンケートから得られた福祉・医療面に考慮して行われた河川整備や施策による利用増進が挙げられる。後者の場合においては、安全性、財政、必要性という問題点の考慮も必要である。

6. 結語

本研究では、河川利用の現状、健康・福祉・医療面での利用の先進的な事例、アンケートによる全国の河川整備、利用状況を示し、河川利用全般の状況を明らかにした上で健康・福祉・医療面での利用増進についての検討を行った。それにより河川の健康・福祉・医療面での先進事例の特徴、各地方の健康・福祉・医療面での河川整備状況、利用に対する意識・意見、健康・福祉・医療面での利用増進についての問題点等が明らかになった。

表-2 散歩・ウォーキング等によく利用されている代表的な河川

都道府県	政令指定都市	北海道開発局	東北地方整備局	関東地方整備局
広瀬川(仙台市)	和泉川(横浜市)	堀川(京都市)	豊平川(札幌市)	北上川(盛岡市)
都賀川(神戸市)	いたち川(横浜市)	猿俣川(広島市)	海川(恵庭市)	小貝川(取手市)
住吉川(神戸市)	堀川(名古屋市)		米代川(能代市)	荒川(足立区)
鏡川(高知市)			釧路川(帯広市)	
北陸地方整備局	中部地方整備局	近畿地方整備局	中国地方整備局	四国地方整備局
信濃川(新潟市)	豊川(豊橋市)	瀬田川(大津市)	斐伊川(雲南市)	吉野川(徳島市)
神通川(富山市)		淀川(枚方市)	宍道川(松江市)	石手川(松本市)
			佐波川(防府市)	五ヶ瀬川(延岡市)

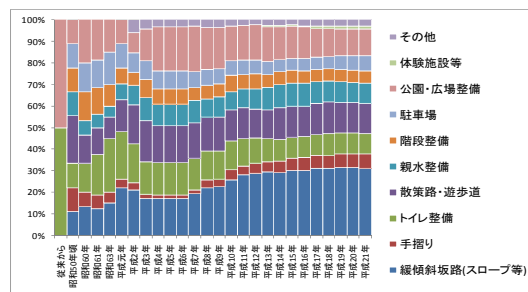


図-3 年度別河川整備状況

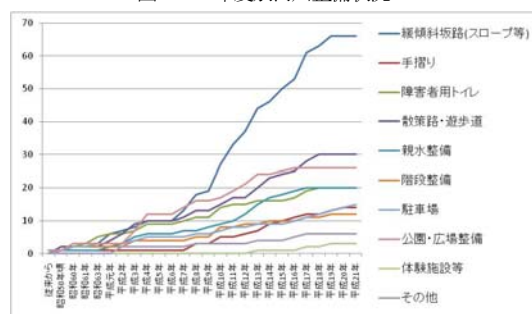


図-4 年度別累加河川整備件数（河川全体）

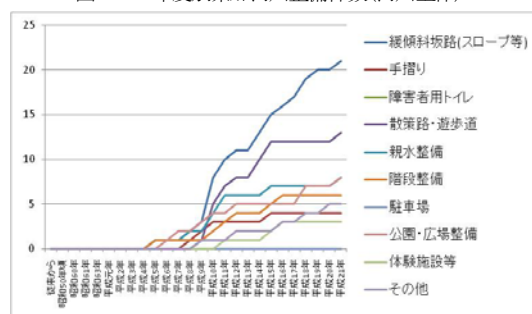


図-5 年度別累加河川整備件数（福祉施設周辺）

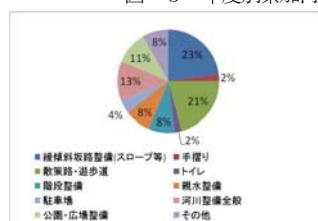


図-6 今後予定されている整備

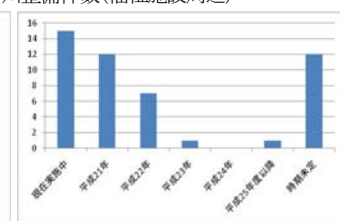


図-7 年度別整備予定件数

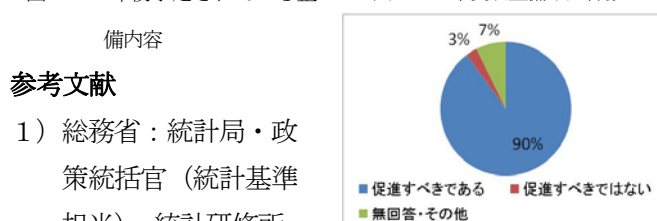


図-8 利用促進についての意見

参考文献

- 総務省：統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所
- 国土交通省河川局：河川水辺の国勢調査，財団法人リバーフロント整備センター，2006
- 吉川勝秀：『流域都市論』，鹿島出版会，pp286-299 2008